

放送大学「生涯学習支援番組」（2026年度第4回制作）の
制作に係る提案募集について

次のとおり提案を募集します。

2026年6月19日

分任契約担当者

放送大学学園 財務部長 北原 文幸

記

1 提案を募集する事項

- (1) 件名 放送大学「生涯学習支援番組」（2026年度第4回制作）の制作業務
- (2) 仕様等 放送大学「生涯学習支援番組」（2026年度第4回制作）の制作業務仕様書（その1）及び（その2）（以下「仕様書」という。）のとおり。
契約の案件の説明については、仕様書を送付する方法により行います。
つきましては、仕様書の送付を希望される場合、下記の連絡先にご連絡をお願いいたします。

放送大学学園放送部放送管理課業務係 mail:gyoumu-k@ouj.ac.jp

※在宅勤務等で担当者が不在の場合がございますので、恐れ入りますが
ご連絡は必ずメールにてお願いいたします。

2 概算所要経費

仕様書のとおり

3 応募者に必要な資格に関する事項

- (1) 「放送大学学園契約事務取扱規程」第4条及び第5条の規定に該当しないものであること。
- (2) 国や地方公共団体の機関において、取引停止又は指名停止の処分を受けているものでないこと。
- (3) 有効年度が令和8年度の「全省庁統一資格」において、関東・甲信越地域の「役務の提供等」のA,B,CまたはDの等級に格付けされている者であること。

4 提出書類等

『放送大学「生涯学習支援番組」(2026年度第4回制作)の制作に係る業者選定実施要領(以下「実施要領」という。)]による。

5 選定方法等

概算所要経費の範囲内において、有効な見積金額を提出した者の中から、放送大学「生涯学習支援番組」(2026年度第4回制作)に係る制作業者審査基準等に基づき、学園の評価担当者による提出書類等の審査を行う。

審査の結果、番組毎に、最も優秀と認められた業者を一者選定する。

なお、審査内容や経過に関する問い合わせには応じない。

6 契約について

契約書の作成を要する。

7 本件に関する問い合わせ先

〒261-8586

千葉市美浜区若葉 2-11

放送大学学園 放送部放送管理課業務係

MAIL gyoumu-k@ouj.ac.jp

8 提出書類等の提出先、提出方法及び提出期限

(1) 提出先 上記7と同じ

(2) 提出方法 郵送*による

(3) 提出期限 郵送：2026年7月14日(火)17時必着

※配送確認のとれる方法(例：書留等)で提出すること。

9 その他

(1) 提案に要する経費は、全て提案者負担とする。

(2) 提出された書類等は、返却しないものとする。

(3) 「3 応募者に必要な資格に関する事項」に定める資格を有しない者、提出書類に虚偽の記載をした者の企画提案は無効とする。

(4) 企画競争の結果については、各提案者に通知する。

放送大学「生涯学習支援番組」(2026年度第4回制作)の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園(以下「学園」という。)のテレビ番組(以下「番組」という。)の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2026年度以降に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針及び計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行い、かつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

仕様書別紙1のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

仕様書別紙1～3のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

(1) 放送番組の演出

- ・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

(2) 内容検討・番組進行表の作成

- ・番組全体の構成案(項目、配列、時間、配分)策定
- ・映像・音声素材等の選定(ビデオ・写真・コメント等)
- ・出演者との内容・スケジュールの交渉(講師・ゲスト等)
- ・ロケーション先の選定、必要に応じた下見

(3) ロケーション(国内)の実施と編集

- ・ロケーション(国内)に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施
- ・出演者のヘアメイク及び衣装の手配
- ・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、ポストプロ業務

(4) 番組の素材資料の収集と作成

- ・動画・静止画・図版等の収集及び作成。資料の収集にあたっては学園が推奨する素材(AFP)を優先的に選択する。今回放送及び学園ウェブサイトでの公開と併せて、YouTube等外部ウェブサイト上での一般向け公開も前提としているため、著作権フリー素材(音楽を含む。)の使用が望ましい。なお、日本経済新聞社の著作物については使用を控えること(許諾条件の履行が困難であるため)。併せて、資料の作成(生成AIを利用する場合を含む。)にあたっては既存の著作物と類似していないか確認するなど著作権侵害を生じさせていないか慎重を期すこと(下記(7)にあっても同様)。

(5) 請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理

処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

- ・学園が定める承諾書を出演者から受領すること。また、受領した承諾書はコピーを保管の上、原本は放送部放送管理課へ提出すること。
- ・番組出演者(学園の教員を除く)にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。
- ・上記(4)の素材資料の放送(マルチ編成含む)等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理を行い、それに伴う費用は請負事業者が負担すること。

- ・放送（衛星、CATV等による同時放送を含む）・インターネット配信（学園のウェブサイト上での一般向け公開。YouTube等外部ウェブサイト上での一般向け公開にも対応のこと。いずれもストリーミング方式であって、国外向けを含む。）の利用許諾を得ること。
 - ・権利処理及び利用した素材（音楽及び上記3）等に伴う出演者並びに上記4）含む）等の記録報告を学園所定の書式（「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」）にて紙及び電子媒体で行うこと。
 - ・制作した番組（放送用利用分以外の番組収録素材を含む）の中に第三者に帰属する権利を侵害しているものが含まれていることが発覚した場合は、請負事業者が全責任を負うこと。
- (6) 美術セットの調達と操作
- ・大道具・小道具、生花木の調達及び操作
- (7) タイトル、テロップ・パターンの制作等
- ・タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
 - ・CG・アニメーションの作成及び操作
- 番組の告知用動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。
- (8) 番組の試写
- ・学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業
- (9) 放送用台本の作成、印刷
- ・放送用台本の作成及び印刷
- (10) 音響効果
- ・番組に関わる選曲及び効果音制作等
- (11) スタジオ収録及び収録時の副調整室及びフロアでの指揮
- ・スタジオ収録に関わる各種伝票処理
 - ・出演者・技術スタッフとの収録打合せ
 - ・ドライ、カメラリハーサル
 - ・学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し
- (12) 広報用写真等の作成
- ・画像例
 - ・番組タイトル画像
 - ・各出演者のバストショット画像
 - ・出演者全員が映っている画像
 - ・番組イメージの分かるグラフィック画像等
 - ・画像サイズ1920×1080、画像形式は学園プロデューサーの指示に従う
 - ・学園ウェブサイトでの掲載・ニュースリリース配信等のインターネット利用のための著作権処理を行っているもの
- (13) 後処理、手直し等
- ・資料の整理
 - ・伝票の整理
 - ・番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
 - ・納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。
- (14) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加

5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数

請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。

6. 学園施設・機器等

(1) 収録は学園のテレビスタジオを使用することができる。その場合、収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。

(2) 8で定める納入物品に係る記録媒体のうち XDCAM メディア及び DVD-R は必要な数を学園が貸与する。なお、DVD-R の貸与については、学園が別に指定するクラウドサービスの利用に代える場合がある。

(3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。

- ・学園スタジオでの収録時に必要な要員（技術要員を除く）
- ・ロケ（要員及び機材）
- ・オフライン編集（要員及び機材）
- ・音響効果（要員及び機材）
- ・スタジオ大道具・小道具、道具操作
- ・メイク
- ・衣装(スタイリスト)

(4) 上記に含まれないものについては学園と請負事業者が協議の上で決定する。

7. 記録媒体等

学園が使用する記録媒体は原則として XDCAM メディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全て XDCAM メディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物について、番組の種別ごとに記載された数量を履行期限までに①～⑦を制作部へ、⑧～⑫を放送部放送管理課へ納入し、学園職員による検査を受けること。なお、③、④又は⑦（※5で定める素材資料データを含む。）については、学園が別に指定するクラウドサービスの利用に代える場合がある。また、納入物品は**学園技術フォーマット（別添の「テレビ制作技術基準」を参照）に準拠すること。**

	生涯学習支援番組 (1番組あたり)	告知用動画 (1番組あたり)
① 放送用本番素材記録XDCAMメディア	1本	1本
② クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1本	1本
③ 番組考査試用DVD-R	1本	1本
④ 番組内容確認用DVD-R	1本	—
⑤ インターネット配信用分割版本番素材記録XDCAMメディア ※2	※3	—
⑥ インターネット配信用分割版クリーンピクチャー収録XDCAMメディア ※2 ※4	※3	—
⑦ インターネット配信用分割版本番素材（MP4形式）記録DVD-R ※2 ※5 ※6	1本	—
⑧ 放送用台本電子媒体	1式	—
⑨ 広報用写真電子媒体	1式	1式
⑩ 著作権処理業務完了報告書 ※1 (紙及び電子媒体)	1式	1式
⑪ 楽曲使用報告書（紙及び電子媒体）※1	1式	1式
⑫ 出演者から受領した承諾書の 原本 ※1 (上記4.(5)を参照)	1式	

※1 学園所定の書式で提出すること。

※2 別途学園が行う指示に従い、生涯学習支援番組1本あたり全体尺45分を複数パートに分割し、インターネット配信用分割版本番素材として納入させる場合がある。この場合、放送大学学園放送番組編成要領を参考として、途中パートの冒頭に番組タイトル等を挿入すること。

※3 ※2の場合、「1番組あたり」を「1パートあたり」に読み替え、各々1本の記録媒体に記録すること。

※4 ※2の場合、納品後における番組の手直しを簡便に行う観点から納入させるものであって、ここでいう「クリーンピクチャー」にあつては番組タイトルその他の必要最小限のテロップ・画像等の挿入を求めることがある。納入を要しない場合を含む詳細については、別途学園の指示に従うこと。

※5 ※2の場合、納品後における番組の手直しを簡便に行う観点から、途中パートの冒頭に挿入する番組タイトルなど分割版に付随する素材資料データも別途提出すること

※6 ⑤で定めるインターネット配信用分割版本番素材データをMP4形式に変換したものであって、その際の動画及び音声コーデックに係るパラメータその他の詳細については、別途学園の指示に従うこと。

9. 番組制作業務完了の報告

請負事業者は、業務完了後「番組制作業務完了報告書」を放送部放送管理課に提出すること。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8及び9の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。学園は、適法な請求書受理後、40日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

- (1) 制作した番組（放送用利用分以外の番組収録素材を含む）に関する著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
- (2) 番組は、学園の著作名義で公表する。なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
- (3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
- (4) 請負事業者は、著作者人格権について、一切行使しないものとする。
- (5) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

- (1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。
- (2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。
- (3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

- (1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて1名以上選任し、任務に当たらせるものとする。
- (2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員及びその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14. 業務の再委託等

請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部又は一部を第三者に委託し、又は、請け負わせてはならない。ただし、業務の一部については、あらかじめ、学園の書面による承諾を受けた場合は、この限りではない。

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組 2番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	放送大学スペシャル	岐路に立つ半導体クラスターの再起（仮）－成長戦略とイノベーション創出のカギー (45分×1本)	4年 40回	2,472.3 千円	契約締結日～ 令和9年2月28日
2	放送大学スペシャル	国宝をひもとく「地獄草紙」～地獄とは何か（仮） (45分×1本)	4年 40回	2,054.9 千円	契約締結日～ 令和9年1月31日

2. ダイジェスト動画（ネット配信等で利用する5分間のダイジェスト動画） 1番組

No.	題目名	本数	概算所要経費（税込）
1	国宝をひもとく「地獄草紙」～地獄とは何か（仮）	1本	上記1 No.2 に含む

3. 告知用動画（放送やネット配信等で利用する1分間の告知用動画） 2番組

No.	題目名	本数	概算所要経費（税込）
1	岐路に立つ半導体クラスターの再起（仮）－成長戦略とイノベーション創出のカギー	1本	上記1 No.1 に含む
2	国宝をひもとく「地獄草紙」～地獄とは何か（仮）	1本	上記1 No.2 に含む

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 石橋 丈

1) 番組名(グループ名) 放送大学スペシャル	2) 個別番組タイトル 岐路に立つ半導体クラスターの再起(仮) ー成長戦略とイノベーション創出のカギー
3) 放送回数、期間、マルチ展開など ・ 4年 40回 ・ インターネット配信公開講座での無料配信を希望 ・ YouTubeでの配信を希望	4) 番組尺、本数 45分 × 1本
5) 内容等 a. 目的・ねらい・視聴ターゲット 産業クラスターとは、企業・大学・研究機関・人材が特定地域に集積し、相互作用を通じて産業競争力を高め、イノベーションを創出する仕組みである。とりわけ「産業のコメ」と呼ばれる半導体は、現代のあらゆる産業の基盤を支える重要な戦略物資であり、2025年11月の日本成長戦略会議においても、今後の重点投資分野として戦略17分野のひとつに選定されている。 本番組は、こうした現状を踏まえ、産業クラスターの本質とともに、半導体産業が再び注目される理由を理解する視点を提供する。 まず産業クラスターが成長とイノベーションを生み出す条件を、アジア諸国の台頭と国際分業の進展を背景に空間経済学、科学的管理法、物流、プロジェクト・マネジメントの視点から整理し、アジア・米国・日本の事例を通じて考察する。さらに、①優れたエンジニア、②研究資金、③高度な研究施設が、適切な順序(①⇒②⇒③)で揃う「シーケンシング」こそが、クラスター活性化の鍵である点も解説する。 実のところ、日本の産業クラスターは、要素の同時確保の難しさ、大学・企業・行政の連携不足、長期投資の弱さなどで十分に成果を上げていくことができなかった。本番組では、どのようにすれば持続的な成長とイノベーションを生むクラスターを再構築できるのか、様々な事例を比較検討することで、その手掛かりを探っていく。 全体を通して「今なぜ半導体産業クラスターなのか」「なぜニュースで注目されているのか」を視聴者が理解し、自ら考えるための情報・視点を提供することで、幅広い層に向けた生涯学習の機会の提供をねらいとする。 専門知識を持たない層の理解を深めるためにも、パワーポイントなど視覚資料を活用した講義形式に加えて、現場取材映像なども用いて産業クラスターと経済成長・イノベーションの繋がりを、アジア・米国・日本の事例を位置づけながら、わかりやすく伝える。 【YouTube 配信理由】 半導体産業の動向は、日本の復権を渴望される成長戦略分野として経済ニュースで取り上げられることも多く、極めて高い社会的な関心が見込まれるため、アクセス容易な外部プラットフォームでの展開が望ましい。	

b. 内容・構成

放送大学のスタジオ収録をベースとして、日本や米国、アジアの産業発展に関する映像を交えながら松井先生と朽木先生が解説・考察し、今後の進むべき方向性をディスカッション形式でまとめていく。なお、映像については「熊本の台湾半導体企業 TSMC」か「北海道・千歳の先端半導体企業ラピダス」でロケに行かなかった企業、「台湾の半導体工業団地」といった半導体関連の映像・画像資料を著作権処理が可能な範囲で使用する予定。

番組は、6つの観点から構成する。

1. イントロ（産業クラスターとは、半導体とは、現在の半導体の重要性とは…など）
2. 半導体等の産業戦略について（取材またはゲスト解説）
（ゲスト候補：経済産業省商務情報政策局担当者、日本貿易振興機構(JETRO)担当者、技術研究組合最先端半導体技術センター(LSTC)担当者など）
3. 産業クラスターの形成メカニズムと発展の論理を多角的に考察
 - ・空間経済学の視点からみる産業集積と「半導体」の日本における経緯（朽木先生）
 - ・科学的管理法・物流・プロジェクト管理の手法（松井先生）
 - ・シリコンバレーなどの事例からイノベーション創出の条件やシークエンシング（両先生）
4. 日本の半導体クラスターと戦略産業クラスター計画への提言から将来の産業の発展を考察（朽木先生）
5. LSTCをはじめとする先端半導体技術の研究開発拠点が担う役割と、日本の半導体産業の国際競争力回復・強化のための戦略的方向性を展望（松井先生）
6. イノベーションと半導体の産業クラスターを議論（両先生）

c. 取材対象 ロケ取材 : 有 ・ 無

ロケ候補

- ①「経済産業省 商務情報政策局（半導体・デジタル産業戦略室）」または「技術研究組合 最先端半導体技術センター（LSTC）— 研究開発の現場」
- ②北海道・千歳 — ラピダス本社・工場建設現場（次世代 2nm 半導体）」または「熊本・菊陽 — TSMC ジャパン（JASM）工場周辺の関連企業集積

※「シークエンシング＝適切な順序でセグメントを揃える」という理論を視覚的に裏付けるには、成功例（台湾等）と現在進行中の事例（ラピダス・TSMC 熊本）を対比的に示すことが効果的であるため。

※YouTube 配信を希望するため、著作権処理が可能な映像・画像のみを使用する。

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

松井美樹特任教授（社会と産業）、朽木昭文元日本大学教授（国際貿易投資研究所客員研究員）

松井先生は、横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授等を経て現職。オペレーションズ・マネジメントおよびサプライチェーン・マネジメントを専門とし、製品開発、ロジスティクス、情報システム等の研究にも従事。オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会会長、日越大学企業管理修士プログラムダイレクター等を歴任して、豊富な国際経験と教育経験を有する。現在、放送大学でオペレーションズ・マネジメント('26)等の放送授業を開講している。

朽木先生は、東京大学大学院総合文化研究科特任教授、日本貿易振興機構(JETRO)理事、日本大学生物資源科学部教授等、豊富な教育経験がある。産業クラスターや開発経済を専門とし、アジア経済研究所、ペンシルベニア大学客員研究員、国際協力機構（旧海外経済協力基金）、世界銀行上級副総裁室上級エコノミスト等を歴任して、豊富な国際経験も有する。放送大学客員教授として、「アジア産業論('17)」の放送授業を担当した。

6) 主体性の確保

企画提案者の松井先生が主となり、朽木先生とともに番組の企画、全体の構成、内容の設計を行うとともに、台本の確認、準備等の各段階で、責任教員の古橋元もコミュニケーションを取って参画する。

7) 制作予定期間	契約締結日～2027年2月末
8) 演出上の特記事項	特に無し
9) 字幕制作希望	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 押尾由起子

1) 番組名(グループ名) 放送大学スペシャル	2) 個別番組タイトル 国宝をひもとく 「地獄草紙」～地獄とはなにか (仮)
3) 放送回数、期間、マルチ展開など ・ 4年間 40回放送 ・ インターネット配信公開講座での無料配信を希望 ・ YouTubeでの配信を希望	4) 番組尺、本数 45分 × 1本 ※共同制作相手方からの要望により、 5分ダイジェスト版を1本制作
5) 内容等 a. <目的> 地獄は、洋の東西を問わず、人間にとって「現世」ならびに「死」の問題とも不即不離の関係にあることから、宗教的、社会的、文化的に重要なテーマとなっており、古来より人々を惹きつけてきた。とりわけ地獄の観念が展開し、その表現が豊かとなったのは、戦乱をはじめとする世情不安、末法や世紀末のことであった。 国内外ともに社会情勢の先行きが日々不透明さを増し、大量の偽情報が錯綜して人々が漠然とした不安感に苛まれるとともに、時として正義感が強いあまりに、他者に対して過剰なまでの制裁を求め、処罰感情が高まることしばしばみられる。こうした世情を踏まえて、今、あらためて、古来より道徳や感情に根差してきた「地獄」に着目し、その観念表現の傑作として名高い12世紀の絵巻物、奈良国立博物館所蔵の国宝《地獄草紙》を学ぶことは大いに意義があると考えられる。当時の人々は、地獄の表現から何を感じ、どう心の安寧につなげていったのだろうか。 番組では、六道の概念をはじめとする日本における宗教美術の知識を学ぶとともに、一方で比較文化の視点から、西洋における地獄の表現も併せて紹介。洋の東西を問わず、人間にとって普遍的な生と死、観念表現のあり方について考える機会としたい。 <ねらい/連携制作> 多くの人々が、子どもの頃から昔話や説話をはじめ様々な媒体を通じて親しんできた「地獄」をきっかけとして、日本と世界の文化史、美術史、歴史といった複数領域へと広がる知的好奇心を育むことを目指すと同時に、文化財がもたらす普遍的な価値・その魅力を幅広い層に伝えていく。 なお、本番組については、奈良国立博物館との共同制作によるものである。奈良国立博物館としては、館所蔵品の教育コンテンツを制作・公開することで、常設展示可能な作品の価値・魅力発信に資する効果が見込まれる。放送大学としては、日本美術史・西洋美術史のみならず、日本史や日本文化史、さらには伝来や絵巻物の保存の観点からは博物館学といった複数領域にわたる放送授業科目への関心向上に寄与する。 <視聴ターゲット> 美術、歴史に関心のある幅広い年代層をターゲットにすることを踏まえ、学術研究の成果に基づきつつも、専門的知識をわかりやすい表現で伝えることを心がける。(YouTube 展開を踏まえ、インバウンド層	

放送大学学園及び外部機関との共同制作による場合の特約

本特約は、本契約に係る制作業務の対象たる生涯学習支援番組（以下、単に「生涯学習支援番組」という。）が、放送大学学園（以下「学園」という。）及び外部機関との共同制作による場合に適用する。

第1条 本特約において、共同制作とは、生涯学習支援番組の制作に当たって学園及び外部機関（放送大学「生涯学習支援番組」の制作業務仕様書（以下「原仕様書」という。）「1. 業務概要」における「学園が示す企画方針及び計画」に記された外部機関であって、以下、単に「共同制作相手方」という。）が制作原資を分担し合い、学園及び共同制作相手方が当該番組の著作権を共有する形態をいう。

第2条 生涯学習支援番組の形態が前条に規定する共同制作に該当する場合、次の表に示す原仕様書の「条項」における「原仕様書」の下線を付した字句は、それぞれ「共同制作による場合」の下線を付した字句に読み替える。

「条項」	「原仕様書」	「共同制作による場合」
原仕様書4（5）2ポツ	番組出演者（ <u>学園の教員を除く</u> ）	番組出演者（ <u>学園の教員及び共同制作相手方の役職員を除く</u> ）
原仕様書11（1）～（3）	<u>学園</u>	<u>学園及び共同制作相手方</u>

第3条 原仕様書「8. 学園への納入物品の取扱いについて」における「番組の種別」に、原仕様書別紙1に規定する「ダイジェスト動画」を加える。

2 前項の「ダイジェスト動画」に係る納入物品は、①～④各1本及び⑨～⑪各一式のほか、インターネット配信用本番素材（MP4形式。コピー制御無）記録USBメモリ1本とする。

3 前項のUSBメモリは、インターネット配信用本番素材（MP4形式）を非圧縮で記録可能な容量のものを請負事業者が用意すること。

（以 上）

テレビ制作技術基準

別添

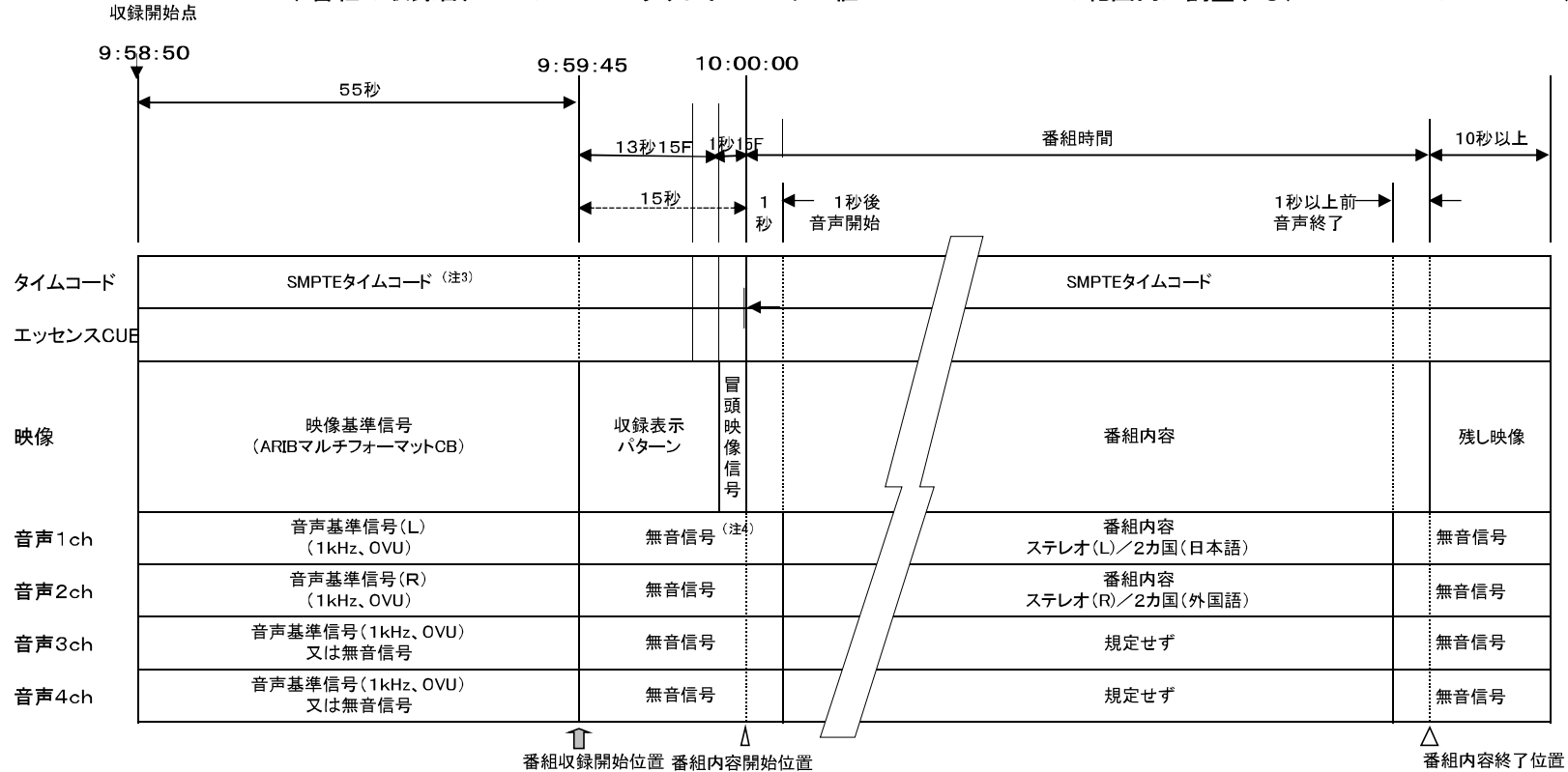
XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

令和6年4月1日

◇映像:MPEG2 422P@50Mbps ◇音声:LPCM 48kHz 24bit 8ch ステレオ

◇MXFオペレーションパターン OP1a

◇番組の収録音声レベル -ラウドネスメーター値 -24LKFS±1dB の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



* 予備SB(ステーションブレイク)は、1枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで基準フォーマット収録する。

* 送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

- 注1: ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
- 2: 音声基準信号は、OVU=基準量子化値(フルビットから20dB下がった値 -20dBFS)とする。
- 3: タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。(ドロップフレーム)
- 4: 無音信号とは入力信号を絞りきった(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
- 5: 番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
- 6: デジタル音声のプリエンファシスは使用しないこと。
- 7: ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
- 8: 末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

別添

外部制作での完プロ制作における編集ソフトの考慮すべき項目

制作番組の完成品（完プロ番組）を放送大学学園に納入の際は、サーバ登録、送付、制作の観点から、下記の編集ソフトウェアを使用すること。

1. エディウス（GrassValley EDIUS）
2. プラナス（PRUNUS）
3. アビッドメディアコンポージャー（Avid Media Composer）

※書き出し時のエンコーダは「Avid Media 4.4.」を使用すること

4. ブラックマジックデザイン（DaVinci Resolve+Main Concept）

なお、上記以外の編集ソフトウェアを使用する場合は、必ず、XDCAM ディスクにベースバンド収録して完成品とすること。

以上によらない場合は、あらかじめ学園の承諾を得ること。